

国際医療機能評価機関JCIの  
認証取得・更新を通して  
日頃から「質の改善」に取り組む

薬剤部・薬局訪問 第104回 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院



【社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷浜松病院】  
静岡県浜松市中区住吉2-12-12

- 病院長: 鳥居 裕一
- 病床数: 744床
- 外来患者数: 1日平均約1,610人
- 外来患者への処方箋発行枚数: 1日平均688枚  
院外処方箋発行率: 85.3%
- 薬剤師数: 53名

〈2016年4月現在〉

聖隷浜松病院は「利用して下さる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ」ことを理念に掲げ、2012年に国内5番目となる国際医療機能評価機関JCI(Joint Commission International)の認証を取得しました。世界基準に則った質の高い安全な医療を常に意識して業務を行うことにより、2015年8月に同認証の更新を果たしています。安全性・有効性を重視した業務改善を進める薬剤部の取組みについて、薬剤部長の塩川満先生、課長の矢部勝茂先生、係長の中道秀徳先生にお話を伺いました。

各自が年間目標を設定、実践し  
存在感のある薬剤師を目指す

●●●薬剤部の方針をお教えてください。

**塩川** 当院が所属する聖隷福祉事業団\*薬剤部門は「薬剤の適正使用管理・指導」を使命としています。当薬剤部はこれに沿い、「安全性・有効性を重視した業務改善を行い、知識・技術・態度(コミュニケーション能力)を磨こう」という方針を立てて取り組んでいます。

特に人材育成が重要と考え、①存在感のある(顔と動きの見える)薬剤師、②明るい薬剤師、③日本一の薬剤師、④効率よく仕事のできる薬剤師、を目標に活動しています。

●●●どのような方法で人材育成をされていますか。

**塩川** 当薬剤部では、方針とは別に年間目標を掲げており、薬剤師は経験年数やキャリアに応じて各自の年間目標を立て、その達成に向けて取り組んでいます。

年に数回、面接にて進捗状況を確認しながら、目標に近づけられるようサポートしています。学会参加の奨励もその一つです。学術集会などで他の薬剤師の活動を知ることが、良い励みになると思います。

**矢部** 聖隷福祉事業団薬剤部門では、研究発表のスキルを磨くために、入局2年目の薬剤師を対象に、毎年学術発表会を開催しています(写真1)。今後の学会発表や論文発表も視野に

写真1



聖隷福祉事業団薬剤部門による学術発表会の様子  
提供: 聖隷浜松病院薬剤部

入れ、各薬剤部の上司がテーマ設定から発表まで指導しています。

\*聖隷福祉事業団: 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、聖隷淡路病院、聖隷横浜病院、聖隷佐倉市民病院、浜松市リハビリテーション病院、袋井市立聖隷袋井市民病院の7施設。

JCIの認証更新に向け、課題を  
「可視化」して分析、改善を行う

●●●JCI認証の更新に向け、重視された事柄をお教えてください。

**塩川** 当院では、世界基準に則った質の高い安全な医療を目指し、2012年11月にJCIの認証を取得、2015年8月に更新を果たしました(写真2)。

認証更新にあたり重視したのは、インシデント・アクシデントレポートなどを基に状況をグラフなどで可視化した上で、対策を立案したことです。

**中道** 日常業務の中で気づいた、次のような点を分析、データ化して改善を行いました。

- 後発品への切替えによる副作用発現状況
- 疑義照会の内容
- オードから投与までに要する時間

疑義照会に関しては、内容だけでなく、対象となった医師の年齢やキャリアなども分析しました。その結果、研修医への疑義照会が多い傾向にあったため、研修医向けのニュースレターを発行して情報提供に努めたところ、疑義照会件数の減少という成果を得ています(図表)。

**矢部** その他、採用薬剤師の見直しも実施してきました。一例を挙げると、TPN(中心静脈栄養)用輸液は各診療科が独自に組み合わせて使用していましたが、汎用性が高く微量元素やビタミンを配合した製剤を使用するよう取り決め、採用薬剤数を整理しました。薬剤選択では、退院後を見据え、在宅でも管理しやすい配慮が大切だと思います。

●●●JCIの認証取得・更新を通して感じられたことをお聞かせください。

**中道** JCIの認証では、マニュアルなどの院内ルールがいかに現場に浸透しているかが問われます。審査時には、サーベイヤー(審査官)がランダムに病院スタッフに声をかけて手洗いをさせたり、患者さんへも病院の対応について質問がなされるため、日頃からの実践が重要だと実感しています。

写真2



2015年8月に更新したJCI認証を囲む薬剤部の皆さん

**塩川** 今回の更新審査では、海外で製造された薬剤の採用割合やコンテナ搬出後の温度管理の把握状況など、想定していなかった指摘もあり、認識を新たにしました。

JCI受審により、質の改善に向けて常に問題点を探そうという自覚が全職員で高まり、医療安全に対する意識向上につながっていると感じています。

在宅も含め、地域医療の活性化に  
積極的に貢献していきたい

●●●今後の抱負をお聞かせください。

**矢部** これからの薬剤師には、医療経済をふまえた薬剤選択が求められるので、教育にも経営的視点を取り入れたいと思います。また、DI担当としては、薬剤の新規採用にあたり、「医薬品リスク管理計画」(RMP: Risk Management Plan)を含め、予見される副作用情報の収集から医師への検査提案、結果分析と、一連の体制づくりを進めたいと考えています。

**中道** 私が担当する外来化学療法室では、地域の保険薬局と情報を共有できる「化学療法地域連携シート」を使って患者さんに副作用や服薬法の説明をしています。薬剤部では、がん関連の専門・認定資格取得者が

着々と増えており、今後は、経口抗がん薬使用患者さんにも、外来で指導・説明を行える体制を整えたいと思います。

**塩川** 地域の患者さんが、より安全で有効な薬物治療を受けられるよう、退院支援業務の更なる充実や、専門薬剤師外来を中心とした指導の標準化に取り組んでいきたいと思っています。

また現在、浜松市の8病院\*\*の薬剤師と浜松市薬剤師会が中心となり、「浜松薬剤師地域連携研究会」を発足し、地域連携のあり方を検討しています。更に、近隣の薬剤師会も加えた「県西部PC(Pharmacist Collaboration)研究会」の活動も行っています。今後は薬剤師だけでなく様々な職種と連携し、在宅医療も含め地域医療の活性化に貢献していきたいと考えています。

\*\*浜松市の8病院: 聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松医科大学附属病院、浜松医療センター、遠州病院、浜松労災病院、浜松赤十字病院、浜松オンコロジーセンター



係長 中道 秀徳 先生

図表 グラフ化による可視化・対策立案の一例



提供: 聖隷浜松病院薬剤部

提供: 聖隷浜松病院薬剤部